

2025年（令和七年） 5月23日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（5月15日～21日）の国際石油市場は、米国・イランの核開発交渉、これに関連したイスラエル、OPECプラスの減産緩和の動きなど、地政学リスクをめぐる動きが中心であった。

NYのWTI原油先物市場は、5月15日、続落の61.62ドルで始まったが、16日には反発の62.49ドル、週明け19日には62.69ドルを付けたが、20日反落、21日は続落、61.57ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（7月渡し）も、前々週・前週（5月1日～14日）は61.40～66.20ドルの範囲で推移したが、当週は、5月15日64.10ドル、16日64.00ドル、19日64.50ドル、20日64.70ドル、21日65.60ドルだった。

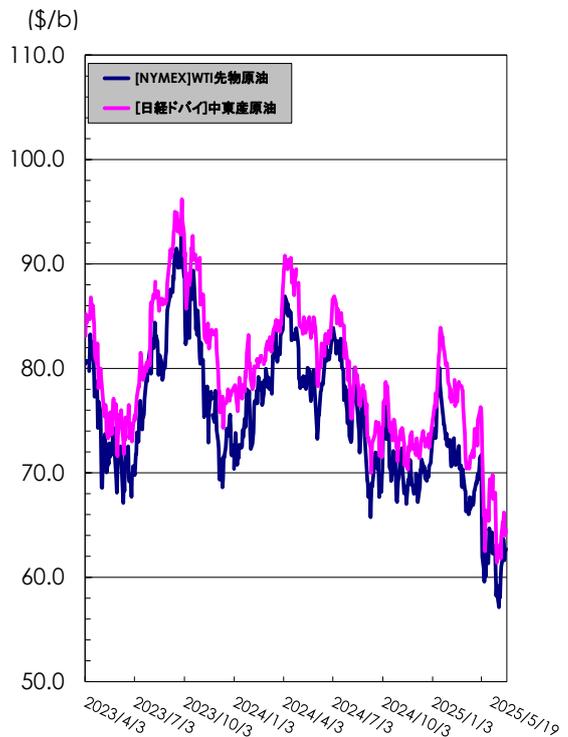
対ドル為替レート（TTM）は前々週・前週（5月1日～14日）143.03～147.90円の範囲で推移したが、当週は、5月15日146.28円、16日145.08円、19日144.94円、20日145.32円、21日144.28円だった。

財務省が5月21日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は71,589円で前旬比2,681円安、ドル建てでは78.70ドルで前旬比0.71ドル安、為替レートは1ドル/144.62円。また、4月月間の原油輸入平均CIF価格は73,437円で前月比1,334円安、ドル建てでは79.00ドルで前月比0.49ドル安、為替レートは1ドル/147.78円。

そのような中で、5月19日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.9円安、軽油も同0.8円安、灯油は同8円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は182.1円だった。5月22日～28日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、制度変更・定額化に伴い、7.4円（定額分5円＋コスト変動分2.4円）となった。

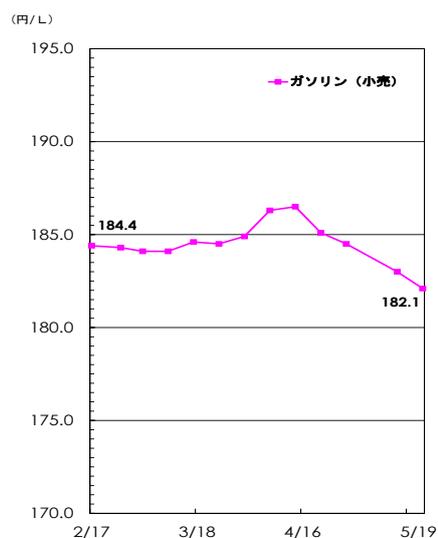
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/11 ~ 5/17	2,521 ▼ -130 ▲	-
	トッパー稼働率 (%)	"	72.8 ▼ -3.8 ▲	-
	原油在庫量 (千kl)	5/17	11,670 ▲ 567 ▲	-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	5/19	64.50 ▼ -0.80 ▼	-20.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/19	62.69 ▲ 0.74 ▼	-17.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	78.70 ▼ -0.71 ▼	-7.19
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	71,589 ▼ -2,681 ▼	-10,281
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	144.62 ▲ 4.06 ▲	6.93
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/19	145.94 ▲ 1.02 ▲	10.97



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/17	1,831 ▲ 87	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/13 ~ 5/19	84.0 ▼ -2.0	▲ 1.0
価格	(TOCOM/中部)	5/19	78.0 ▼ -2.0	▼ -2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/19	182.1 ▼ -0.9	▲ 7.3

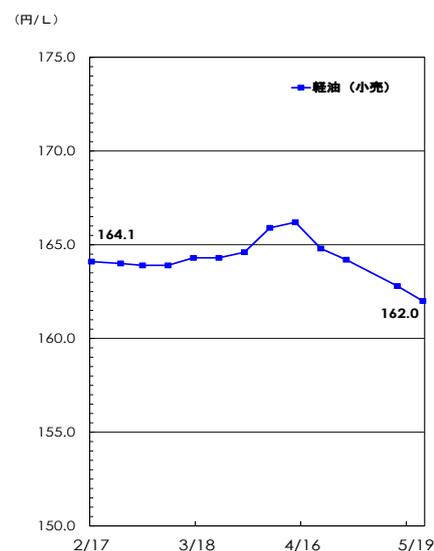
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

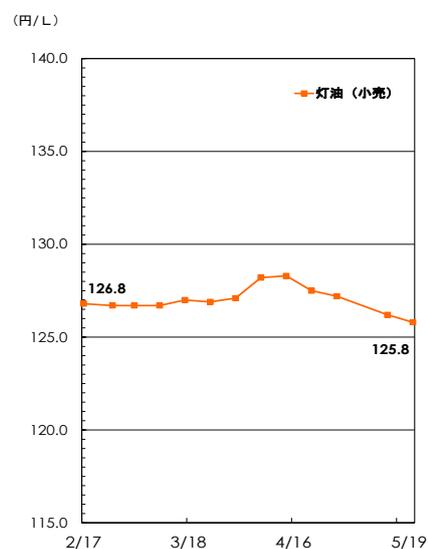
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/17	1,869 ▲ 12	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/13 ~ 5/19	87.9 ▼ -1.6	▲ 4.3
価格	(TOCOM/中部)	5/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/19	162.0 ▼ -0.8	▲ 7.5

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/17	1,887 ▲ 91	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/13 ~ 5/19	81.0 ▼ -3.0	▼ -0.5
価格	(TOCOM/中部)	5/19	79.0 ▼ -4.0	▼ -3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/19	125.8 ▼ -0.4	▲ 8.8



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前々週・前週（5月1日～14日）のNYMEX・WTI先物市場は57.13～63.67ドルの範囲で推移した。

当週5月15日は、中東訪問中のトランプ大統領は、カタールのドーハで、イランとの核合意は近いと語り、イラン側も同様の発言があり、この緊張緩和と早期のイラン経済制裁解除予想から続落した。また、この日発表の国際エネルギー機関（IEA）の月報は、2025年の世界石油需要をわずかに上方修正したものの、経済の逆風・EV車の販売好調で、伸びは鈍化するとした。6月物終値は、前日比1.53ドル安の61.62ドル。

週末16日は、ロシアとウクライナのイスタンブールにおける停戦交渉は決裂、イスラエルはガザ地区のハマス・イエメンのフーシに強硬姿勢を崩さない中、緊張は高まり、3日ぶりに反発した。ただ、この日IEAは、年末に向け、EV車の販売が伸び、石油需要に圧力をかけるとのレポートを発表した。6月物終値は前日比0.87ドル高の62.49ドル。

週明け19日は、ムーディーズが米国債格付けを低下、中国当局は4月の鉱工業生産と小売上の鈍化を発表、米中両国経済の先行き不安が拡大したものの、イラン当局者は、対米発言を強化、交渉妥結期待は後退、さらに、米ロ首脳の

電話会談は進展がなかったため、緊張は拡大し、わずかに続伸した。6月物終値は前日比0.20ドル高の62.69ドル。

20日は、欧州連合（EU）が対ロシア経済制裁を強化、イランの最高指導者ハメネイ師が対米核問題交渉に懐疑的な発言があったものの、OPECプラスの減産に参加中のカザフスタンの5月の産油量増加の報道があり、わずかながら、3営業日ぶりに反落した。6月物終値は同0.13ドル安の62.56ドル。

21日は、イスラエルが核開発問題との関係でイラン攻撃準備中との報道で、買いが先行したが、米国の石油在庫報告で原油・石油製品ともに積み増しとなったことで、需給緩和感から、続落した。この日から、取引の中心限月となった7月物終値は0.46ドル安の61.57ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による5月21日発表の16日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比130万バレル増、ガソリン在庫は同80万バレル増と、それぞれ市場予想に反する積み増しとなり、需給緩和感が拡大した。

EIAによると、5月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.3セント高の1ガロン3.173ドル（123.0円/ℓ）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比6.0セント高の1ガロン3.536ドル（137.1円/ℓ）と6週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、5月16日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の473基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年05月11日～05月17日に休止したトッパー能力は37.1万バレル/日で、前週に対して13.6万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は252.1万klと、前週に比べ13.0万kl減少。前年に対しては5.0万klの増加。トッパー稼働率は72.8%と前週に対して3.8ポイントの減少、前年に対しては4.1ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

5月17日時点の在庫は、ガソリン・灯油・軽油・C重油は積み増しとなり、A重油が取り崩しとなった。

ガソリンは183.1万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては8.5万kl多い。

灯油は188.7万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては48.7万kl多い。

軽油は186.9万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては38.6万kl多い。

A重油は77.2万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては2.8万kl多い。

C重油は181.1万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては0.1万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (5/17)	前週 (5/10)	前週比
ガソリン	1,831	1,744	▲ 87 (5%)
ジェット燃料	751	761	▼ -10 (-1%)
灯油	1,887	1,796	▲ 91 (5%)
軽油	1,869	1,857	▲ 12 (1%)
A重油	772	788	▼ -16 (-2%)
C重油	1,811	1,767	▲ 44 (2%)
合計	8,921	8,713	▲ 208 (2.4%)

5 国内/元売会社製品卸価格

5月13日～19日のドル建て中東原油価格は、前週比値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。しかし、5/22からの補助金制度改正に伴い、補助額は7.4円(定額分5円+コスト上昇分2.4円)となり、実質卸価格は値下がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

5月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円安の182.1円、軽油も同0.8円安の162.0円、灯油は18%ベースで同8円安の2,264円(1%ベースでも0.4円安の125.8円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり4県、横ばい2県、値下がり41都道府県だった。全国最安値は愛知県の175.2円、その次は岩手県と埼玉県の175.5円であった。他方、最高値は高知県の193.7円。最も値上がりしたのは鳥取県(同0.7円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同2.5円安)だった。

次回調査時(5/26)のガソリンの小売価格は、補助金の定額化もあり、値下がり予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/19)	前週 (5/12)	前週比	直近高値
レギュラー	182.1	183.0	▼ -0.9	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	125.8	126.2	▼ -0.4	08/8/11 132.1
軽油	162.0	162.8	▼ -0.8	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第8号) の公表は、5/30 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。